



昭和大学
SHOWA University

—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進的医療の推進
良き医療人の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

新年のご挨拶

昭和大学歯科病院 病院長 馬場 一美

明けましておめでとうございます。

今年は卯年、干支は「癸卯（みずのと・う）」です。「癸」は甲、乙、丙と1から10まで数える十干（じっかん）の最後です。そのため、生命の終わりを意味するとともに、新たな生命が成長し始める状態を意味しています。2023年は「癸」と「卯」の組み合わせですから、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するといった縁起の良い年になると期待できます。

さて、我が国の少子化は深刻で、65歳以上の人口は増え続けているにも関わらず総人口は減少傾向です。こうした傾向が常態化しており、医療には生まれてきた命を大切に育てること、そして長くなった寿命をより良く生きること、つまり健康寿命の延伸という大きな課題が突きつけられています。その中で咀嚼機能、つまり食べる機能をはぐくみ、生涯にわたって維持することの重要性がますます注目を集めています。

「食」は生命の根源的な営みであるばかりでなく、子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためにも重要です。さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる「食育」は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、

生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものです（食育基本法より引用）。高齢者の健康を維持する上でも「食」は非常に重要です。食事を楽しめるかどうかは生活の質と深く関わるだけでなく、しっかり食べることで脳の活動が活性化されます。歯を失い放置すると（治療を行わないと）、咀嚼機能が低下し認知症やフレイルになるリスクが高まることが明らかにされています。

コロナ感染症もまだまだ続きそうですが、感染防止に留意しながら、皆様とともに「癸卯」の年を文字通り飛躍の年にしたいものです。昭和大学歯科病院は「食」を支えながら、子どもたちの食育、健康長寿の実現にむけて頑張っています。

本年もどうぞ宜しくお願いいたします。



来たる春へ 撮影者：大西

新年のご挨拶

昭和大学歯科病院 副院長 長谷川 篤司

新年明けましておめでとうございます。

今年の干支は「卯」、兎（ウサギ）年です。日本では、ウサギの穏やかな性格から「家内安全」に通じるとか、よく跳ねる行動から「飛躍（景気が良くなる）」の象徴などと言われています。また、西洋では、ウサギはキリストが復活した奇跡を祝う重要な行事であるイースターにおいて、幸運のイースターエッグをもたらすイースターバニーとしても信じられています。

東京都における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の新規感染者数は、11月中旬以降、変異株とともに感染者は再度増加を続け、いよいよ第8波に突入している現状です。

私の担当している病院広報委員会ではウィズコロナに向けて、新型コロナウイルス感染者の増減を見据えながらではありますが、患者さんや地域の皆さまへの情報公開や交流を少しずつでも復活させていきたいと考えていま

す。それらの一つとして、昨年10月には「公開講座」を3年ぶりに対面で実施することができました。また、（現在は中断していますが）インプラント治療に関する説明会も可能な限り開催を試みていきたいと考えております。



今年のイースターは4月9日です。4月頃には第8波も下火になり、イースターバニーたちが幸運を連れてきてくれることを願っています。

当院では今年も職員一丸となり、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止を丁寧に継続してまいります。

患者さんおよび地域の皆さまにおかれましては、情報交換や交流と合わせて、新型コロナウイルス感染拡大防止に引き続きご協力をお願いしたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



昨年の公開講座の様子



千束八幡神社にて、新年のご祈祷



- P1 巻頭言 新年のご挨拶 病院長 馬場 一美
- P2 新年のご挨拶 副院長 長谷川 篤司
- P3 歯科診療トピック 歯科麻酔科
- P4 海外からの臨床研修受入れ、患者満足アンケートお知らせ
編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

■ 患者さん向け、■ 医療機関向け、■ お知らせなど

歯科診療トピック 歯科麻酔科

歯科麻酔科 診療科長補佐・講師 西村 晶子

～全身麻酔での歯科治療について～

全身麻酔は大がかりで怖いものというイメージはありませんか？ 歯の治療に全身麻酔なんて大げさだと思いませんか？ しかし全身麻酔下で行えば、どのような治療も眠っている間に終わってしまいます。長時間にわたって口を開け続ける努力も痛みにも耐える必要もありません。

現在の全身麻酔は安全であるだけでなく、より快適なものになりました。点滴からお薬が入ると数秒で眠り、手術が終われば10分ほどで目を覚ますことができます。その後は1～2時間程度ゆっくりベッドで休めば、後は自由に過ごすことができます。

このような全身麻酔下での歯科治療は年々認知度が増大し、当院では年間1,000件を超える全身麻酔症例が行われています。これは歯科単独の施設としては全国トップクラスであり、最近5年間でも症例数が1.5倍に増加しました。また、昭和大学病院をはじめとする医学部附属病院にも歯科麻酔科医が在籍して歯科・口腔外科の麻酔管理を担当しており、昭和大学全体では日本歯科麻酔学会認定の専

門医12名、認定医13名を含む36名が常勤医として在籍し日々の診療を担当しています。

当院での全身麻酔の手術には腫瘍や顎変形症などの大がかりなものもありますが、多くは親知らずや過剰歯の抜歯、嚢胞摘出術などで、むし歯の治療も必要に応じて全身麻酔下で行なっています。すべての手術が安全に実施されるために、歯科麻酔科が手術を受ける全患者の検査データをチェックし必要な準備を行います。また小児・障がい者の患者さんは、事前に保護者を交えながら全身麻酔について説明したり質問に答えたりすることで、安心して手術に臨んでもらえるようにしています。

私たち昭和大学歯科病院歯科麻酔科は麻酔管理・全身管理を専門にしながら、一人でも多くの患者さんが安心して歯科治療を受けられるようにお手伝いしています。全身麻酔での歯科治療を希望される方をはじめ、歯科治療に不安を抱えている方、全身的な疾患を理由に地域での歯科診療が困難な方は診療担当医を通して歯科麻酔科までご連絡ください。



図1：歯科麻酔科管理症例数の推移



図2：手術室の麻酔維持中の写真

ASEAN歯科ネットワークからの依頼による 昭和大学歯科病院における臨床研修受入れについて（ご報告）

事務課

令和4年10月4日（火）にベトナム人歯科医師5名の歯科病院研修を実施いたしました。

当日は歯内治療科・補綴歯科・インプラント歯科において実際の治療現場を見ていただきながら解説する形で進めさせていただきました。ベトナムでの今後の活躍に期待いたします。ASEAN歯科ネットワーク国際歯科医療研究会の山田嘉宏先生におかれましては今回の研修にあたり調整等のご助力をいただき感謝申し上げます。



馬場病院長と研修されたベトナム人歯科医師

患者さん満足度調査アンケートご協力をお願い

事務課

患者さん満足度調査 ～アンケートご協力をお願い～

当院では、患者サービスの向上を図るため、患者さんの声をお聞かせいただきたく、下記の日程において「患者さん満足度調査」を実施いたします。
お手数ですが、アンケートのご記入にご協力賜りますよう、宜しくお願いいたします。

1. 調査期間： **1月28日(土)～2月3日(金)**（日曜日除く）
2. 記入方法：お名前を記入いただく必要はありません（**無記名方式**）。
患者さんご本人がご記入をお願いします。
記入が困難な場合やお子さんの場合は、ご家族または保護者の方がご記入ください。
3. 回収場所：各階に**記入台・鉛筆・回収箱**を設置しています。
アンケート用紙ご記入後は、回収箱に投函してください。



◆調査集計結果は、後日院内に掲示いたします。

昭和大学歯科病院

編集後記

3年ぶりとなる行動制限のない年末年始、多くの方と顔を合わせ、飲食する機会もあったかと存じます。また、今後も多くの催しが行われ、人と触れ合う機会が増えていくと存じますが、依然として新型コロナが猛威を振るっておりますので、引き続き基本的な感染防止策（マスクの着用、手洗い、三密の回避）の徹底を心がけていきたいと思います。新年が皆様にとって素敵な一年でありますよう、心からお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。（A.S）